



## ほほえみ 第99号

今年は、今のところ昨年よりは積雪が少ないようで、道に除雪車が通ったりもしていないようです。もうすぐ、立春ですね。陽も徐々に長くなっていくようで、春の到来が待たれます。未だインフルエンザの流行期でもあります。今しばらく、皆様、インフルエンザに留意されて、過ごしていただければと存じます。

### がんとマイクロサテライト不安定性

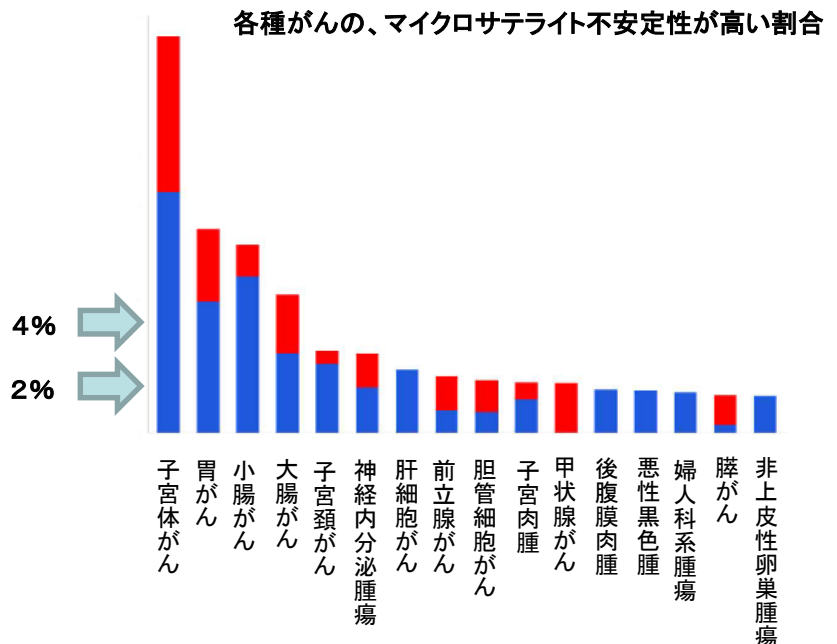
昨年末に、マイクロサテライト不安定を示すがんに対して、免疫チェックポイント阻害剤であるペンブロリズマブが承認されたことを、前回のニュースレターにてお知らせしました。このマイクロサテライト不安定性は、ペンブロリズマブの適応を見極めるために必須検査項目なのですが、元々のがんに於ける意義に関して、今回、ご説明したいと思います。

そもそもがんという疾患は、“遺伝子の病気“と言われるように、細胞の遺伝子異常(変異、転座など)によってひきおこされます。一つの遺伝子異常によって発がんが起こることもありますが、そういった場合はむしろ稀で、通常は沢山の遺伝子異常が積み重なって発がんが起こります。一般に遺伝子は変異が生じないように、幾重にも間違いが起きないための機構で守られているのですが、非常に高頻度で遺伝子異常が発生する特殊な場合があり、研究によって、遺伝子の変異を修正する機能が極端に低下したがん細胞があることがわかっています。

これらのがんでは、がんとしては発症する年代が若かったり、稀にしか起きないような場所にごがんが生じる(小腸がんなど)ことが分かってきました。発見者の名前をとってリンチ症候群と呼ばれています。

右のグラフのように、一般のがんでも2-3%程度の確率ではあるのですが、リンチ症候群と似た状態のがん存在し、この場合に限り、ペンブロリズマブが有効に作用する可能性が出てきます。子宮体がんや小腸がんやや頻度が上がっていますが、リンチ症候群とのオーバーラップがあるためでしょう。それ以外のがんでは、2-3%ということです。

現代は、がんの病態を細分化し、治療方針を決める、プレジジョン・メディスンに向かっているため、このような精細な議論が行われるようになってきているのです。



## つるバラについて

バラの世話は大変なのではないかとよく言われるのですが、気難しいバラのイメージは、ちょっと前の時代の木立性のバラのものではないかと思えます。肥料をやって、農薬を頻回にまくようなイメージですね。現代のつるバラは、品種にもよりますが、耐病性が高くなっており、生育も良いので、あまり肥料を与える訳ではありません。

伸長が極めて良い、新しい枝がぐーんと伸びるものをランブラーと呼び、それほどでもないものはシュラブと呼んでいます。年に一回咲くのを一期咲き、二回程度咲くの返り咲き、連続的に咲くのが四季咲きです。咲く回数が多いほど、枝の伸びは悪くなります。

枝を活かす工夫が必要で、名人と言われた村田晴夫先生の剪定・誘引されたつるバラを写真で見ると、華やかですが、出過ぎない品格がありますね。きれいさびと言われる小堀遠州の茶碗のような。

村田ばら園ホームページより



## 恵方巻

子供のころは、節分と言えば豆まきだったのですが、最近では恵方巻というのが定番になりつつあります。大手スーパーやコンビニでは、作り過ぎた恵方巻の問題が取りざたされていますが、我が家では自家製の恵方巻を食べています。売っているような豪華なものではなく、普通の太巻きを、恵方に向かって無言でもぐもぐ食べていますね。

ここ2-3年は、ハローウィンの際に、渋谷が大変なことになったりしていますが、その一方でバレンタインデーは下火になったり、時代によってウケる年中行事が変わってきているようです。恵方巻はどうなっていくのでしょうかね。



## MEMO

### 2月のがん化学療法科の予定

2月3日	節分
2月5日	診療応援(平出先生)
2月11日	建国記念日
2月12日	診療応援(工藤先生)
2月19日	診療応援(工藤先生)
2月26日	診療応援(平出先生)

新渡戸稲造記念メディカル・カフェは、インフルエンザ流行期のためお休みします。



今年の恵方は東北東ということです。